

令和 6 年度甲州市学校図書館利用満足度調査結果報告書

令和 7(2025)年 3 月

甲州市

令和6年度甲州市学校図書館利用満足度調査結果報告書

1. 調査の目的

各校の学校図書館に関する状況調査を令和6年度から令和8年度の3か年継続して行う中で、現状の把握と改善点等を検討する

2. 調査期間

令和6年11月5日(火)～11月28日(木)

※上記期間内で、各校の状況に応じて1週間程度の期間を設定し実施

3. 調査対象

甲州市内全小中学校17校 小学3年生～中学3年生

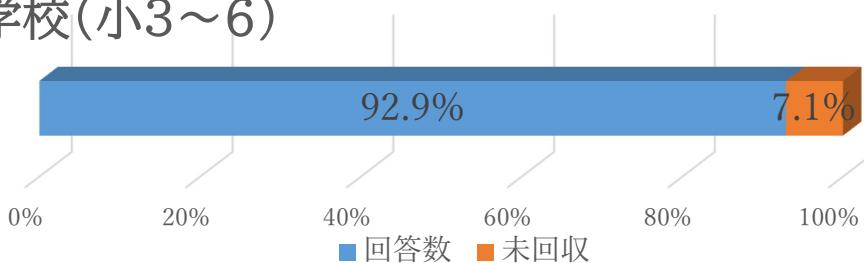
4. 調査方法

児童生徒の一人一台端末を活用しGoogleフォームにて回答

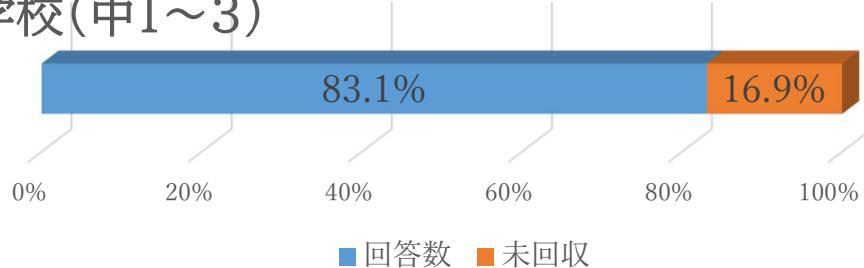
5. 回答状況

	回答数	回答率
小学校(小3～6)	797	92.9%
中学校(中1～3)	540	83.1%

小学校(小3～6)



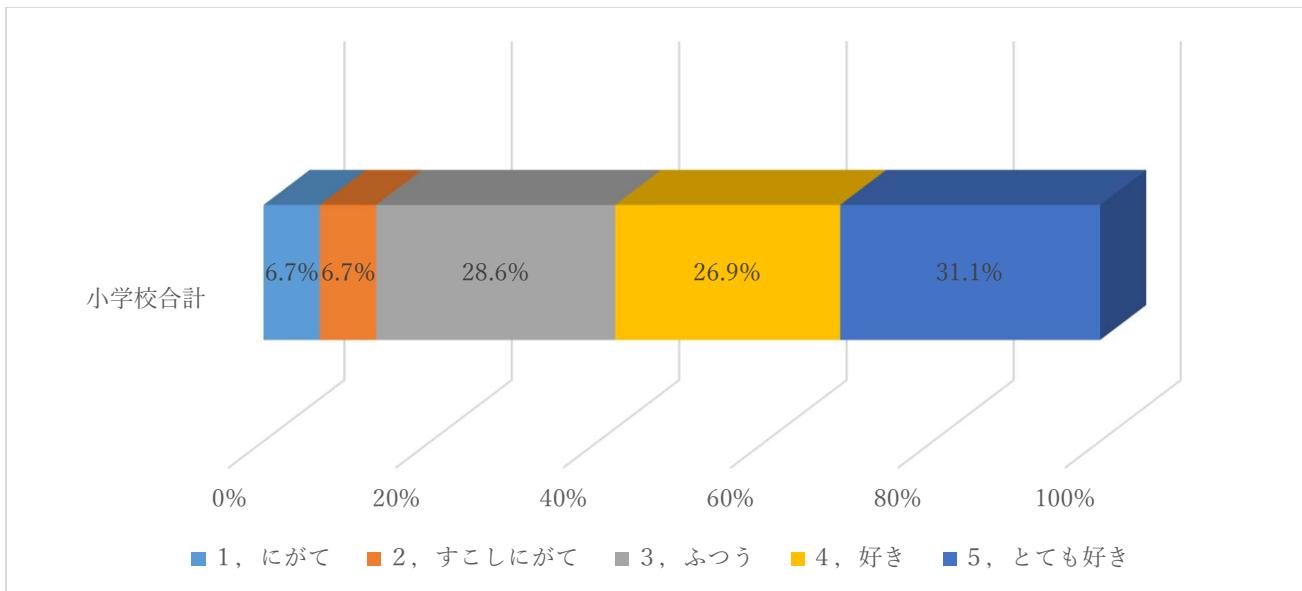
中学校(中1～3)



小学校:調査の結果

【報告1】質問:本を読むことが好きですか?について

	1, にがて	2, すこしにがて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
小学校合計	6.7%	6.7%	28.6%	26.9%	31.1%



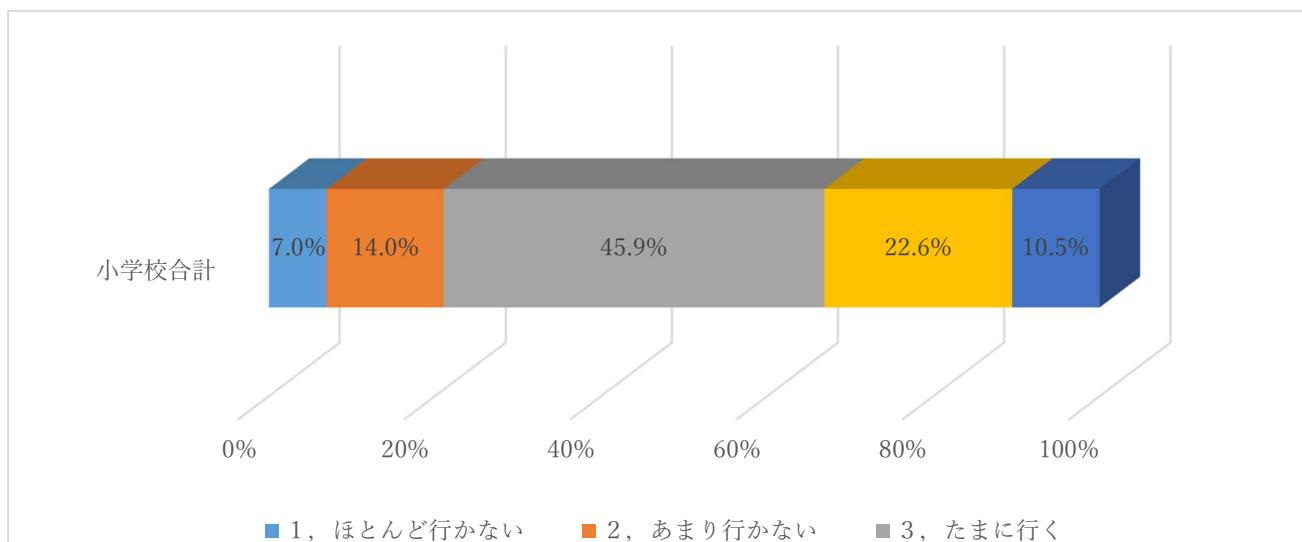
⇒「にがて」「すこしにがて」の回答率は13.4%でした。

全校1, 2年生に「図書の時間」が確保されており、担任、司書が連携し読書推進にあたっているため、甲州市内の小学生は、本を読むことについての苦手意識が少ないと考えられます。

今後、様々な工夫をして本と触れ合う機会を増やしていき、読書への苦手意識をさらに軽減していきます。

【報告2】質問：学校の図書室にひと月にどのくらいいきますか？について

	1, ほとんど行かない	2, あまり行かない	3, たまに行く	4, よく行く	5, とてもよく行く
小学校合計	7.0%	14.0%	45.9%	22.6%	10.5%



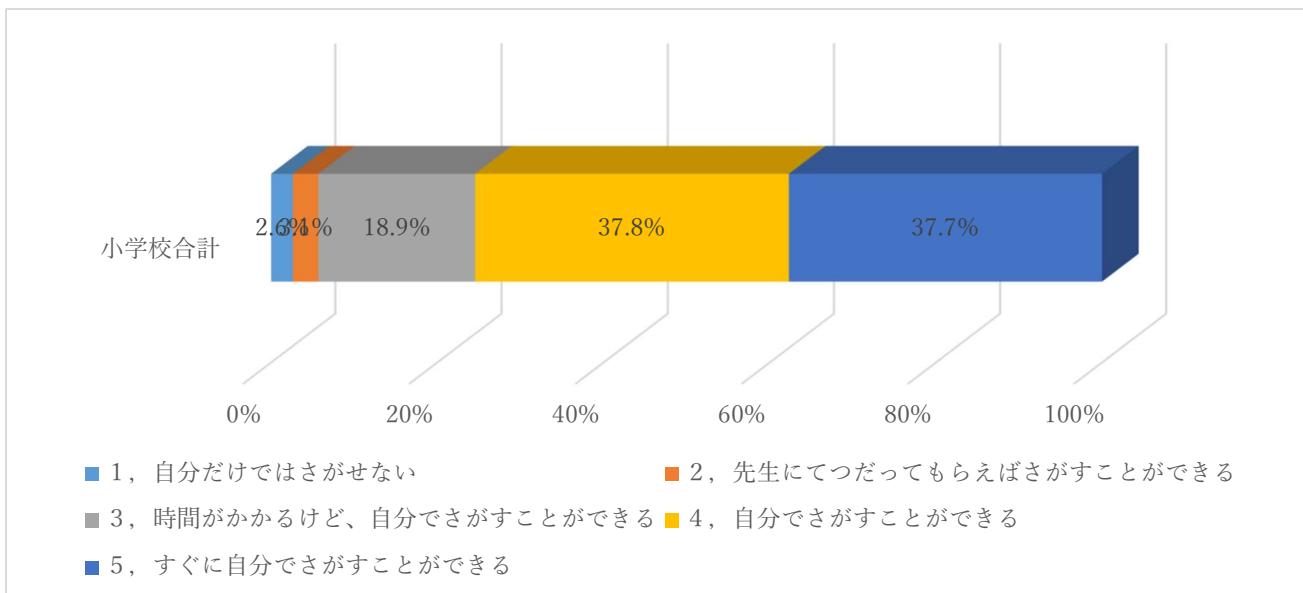
⇒「たまに行く」「よく行く」「とてもよく行く」の回答率は 79.1%でした。

「図書室にいくこと」に関しては、学校行事、学校日課が大きく影響しており、小学校においては、一日の中で長い休み時間が、中休みと昼休みの2回ため、多くの児童に利用いただいている。

コロナ禍で分散して図書室を利用していたことから、決められた時間以外に図書室に足を運ぶ児童が減っている状況もあるため、担任の先生と司書の連携を密にし、時間の確保に努めています。

【報告3】質問：学校の図書室で読みたい本を自分でさがすことができますか？について

	1, 自分だけではさがせない	2, 先生にてつだってもらえばさがすことができる	3, 時間がかかるけど、自分でさがすことができる	4, 自分でさがすことができる	5, すぐに自分でさがすことができる
小学校合計	2.6%	3.1%	18.9%	37.8%	37.7%



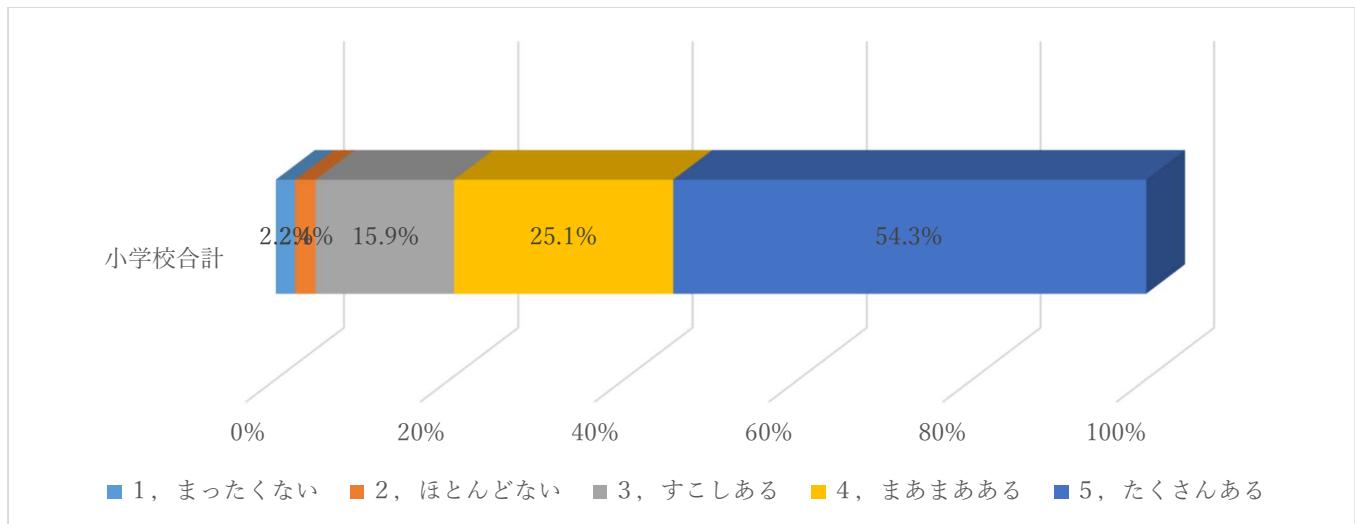
⇒「時間がかかるけど、自分でさがすことができる」「自分でさがすことができる」「すぐに自分でさがすことができる」の回答率は94.4%でした。

自分で本を探せる児童が90%割を超えており、図書の時間の指導、室内表示の工夫などが功を奏していると考えます。

図書室が電算化になり、本の探しやすさは今まで以上に便利になりますので、新しいツールを使用し、より使いやすい図書室を目指していきます。

【報告4】質問：学校の図書室に好きな本がありますか？について

	1, まったくない	2, ほとんどない	3, すこしある	4, まあまあある	5, たくさんある
小学校合計	2.2%	2.4%	15.9%	25.1%	54.3%



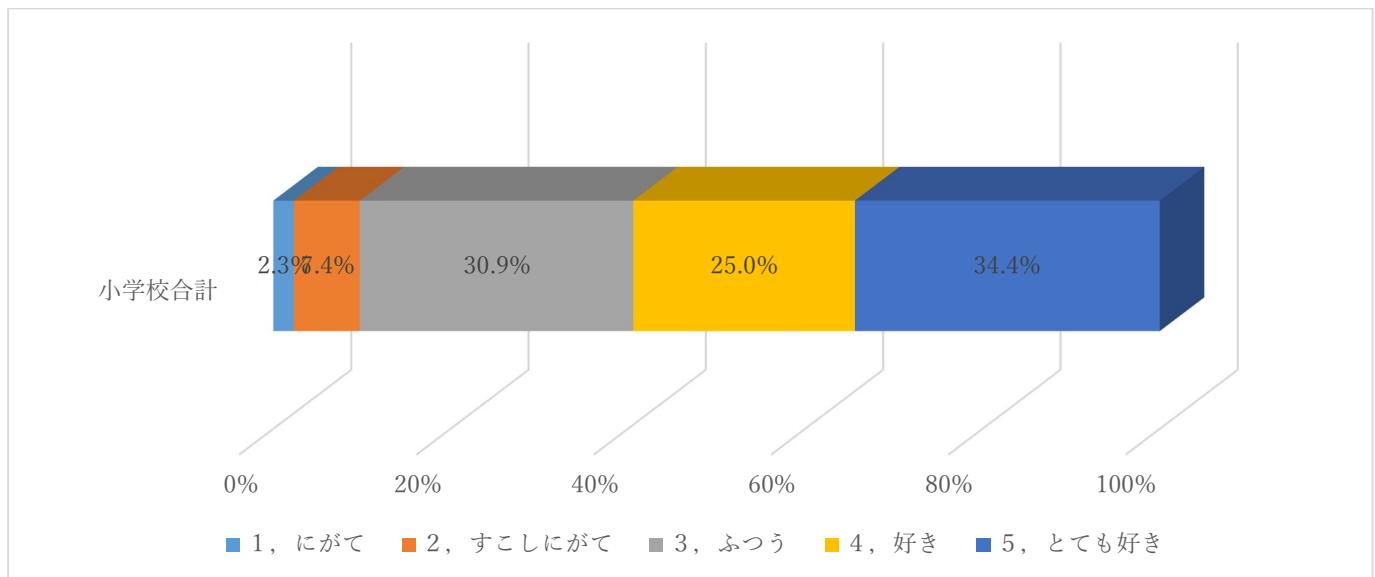
⇒「たくさんある」の回答率は 54.3% でした。

学校司書は「学校図書館」として相応しい本の選定を心掛けています。その蔵書の中で児童が「読みたい」と思う本がたくさんあると感じているのはニーズに合った選本ができていると感じています。

学校図書館は、本を本棚に並べておくだけでは児童がなかなか手にとらないことがありますので、児童の様子を見ながら必要に応じた声掛けをしていきます。

【報告5】質問：学校図書館に行くことが好きですか？について

	1, にがて	2, すこしにがて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
小学校合計	2.3%	7.4%	30.9%	25.0%	34.4%



⇒「好き」「とても好き」の回答率は59.4%でした。

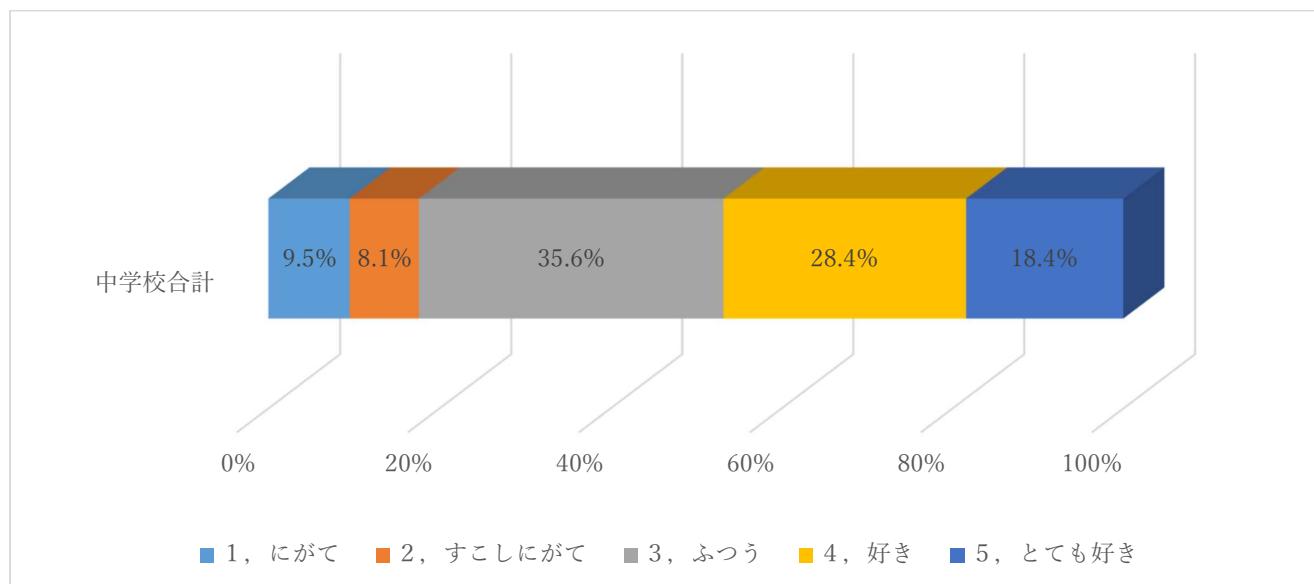
図書室に行くことは概ね好きな児童が多く、学校図書館は、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割以外にも、児童が気軽に立ち寄れるサードスペース的な役割を担う必要がありますので、目的達成していると考えます。

これからも、児童が安心して学習、読書、生活できる空間を作っていきます。

中学校:調査結果

【報告1】質問:本を読むことが好きですか?について

	1, にがて	2, すこしにがて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
中学校合計	9.5%	8.1%	35.6%	28.4%	18.4%

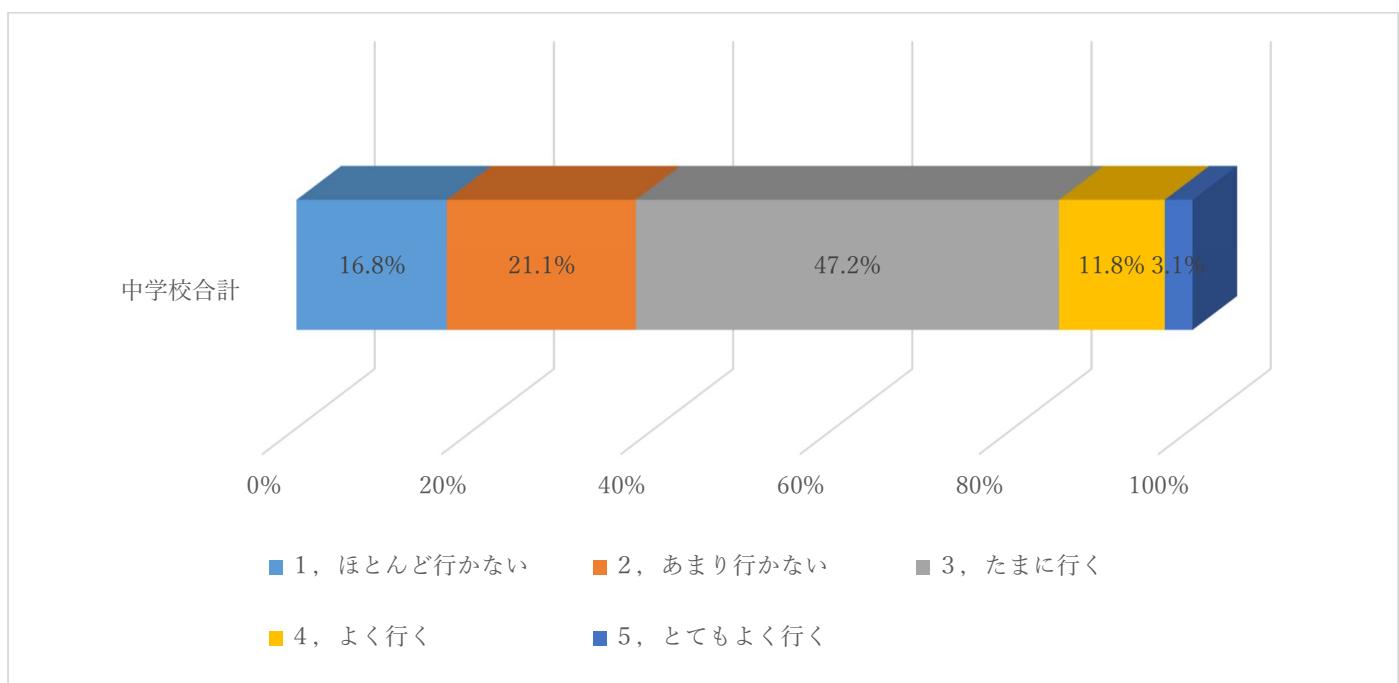


⇒小学生のときに、読書に興味を持てるか持てないかで、その影響が中学生になると大きく出てくるように思います。小学生のときと比べると「ふつう」「にがて」「すこしにがて」という回答も少しずつ多くなっています。これは内容も難しくなってくることもあります、一般的に言われる読書離れの傾向にあると考えられます。

デジタル社会の中、何でもネットで検索したものをすべてと思うのではなく、何度も校正された書物だからこそ正解があるということを早い段階で認識し、ネットの情報だけをあてにしない知識を持たせるような指導を心掛けています。

【報告2】質問：学校の図書室にひと月にどのくらいいきますか？について

	1, ほとんど 行かない	2, あまり 行かない	3, たまに 行く	4, よく行く	5, とても よく行く
中学校合計	16.8%	21.1%	47.2%	11.8%	3.1%



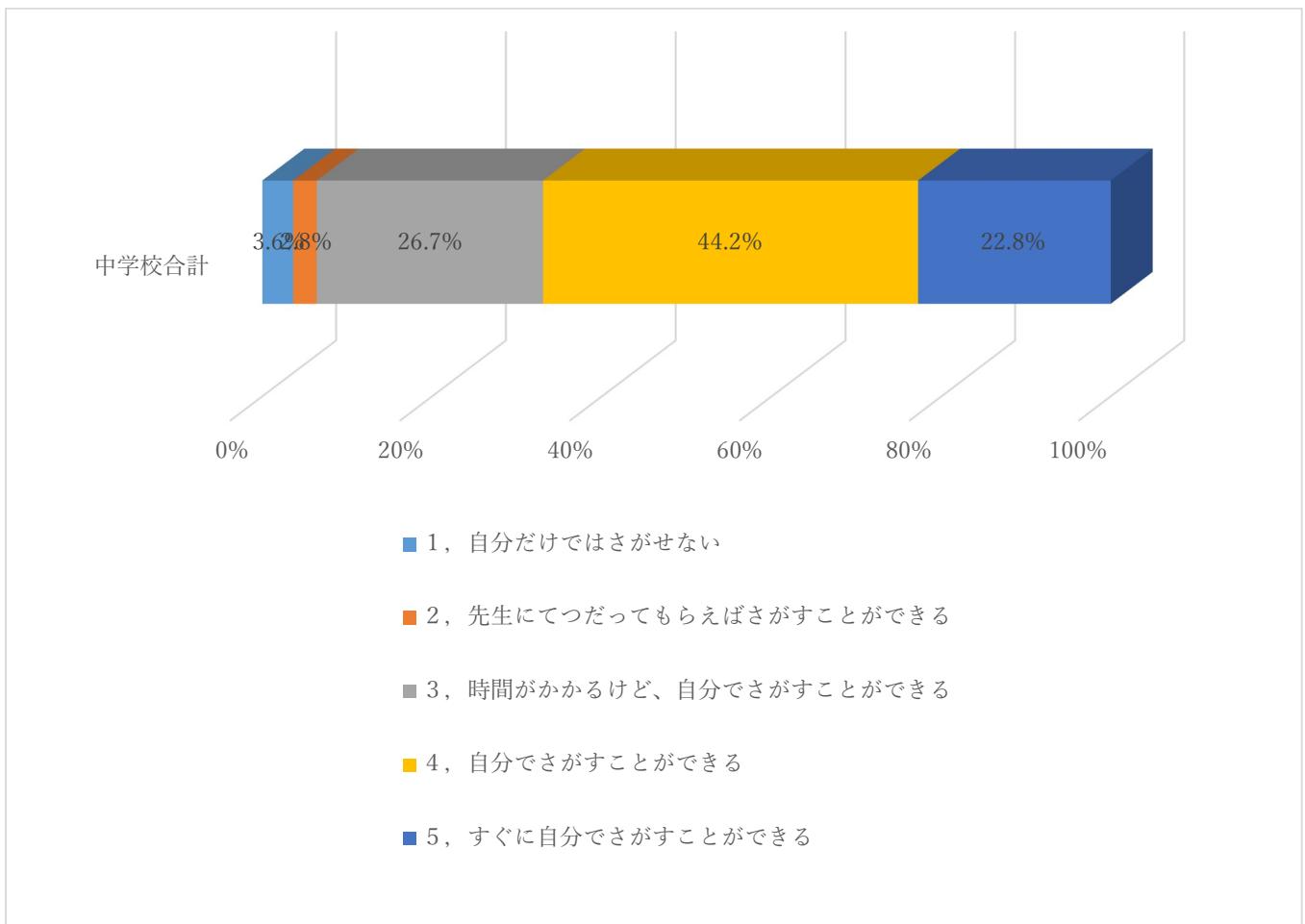
⇒「ほとんど行かない」「あまり行かない」の回答率は37.9%でした。

中学生は、授業間の休み時間の教室移動や次の授業の準備のため、また放課後もその後の部活等の諸活動のため、図書室の利用は昼休みが多くなります。そのため「ほとんど行かない」「あまり行かない」という回答率が多くなってしまうと考えられます。

中学校の貸し出し規則としてある程度長期間借りることも一因として考えられます。

【報告3】質問：学校の図書室で読みたい本を自分でさがすことができますか？について

	1, 自分だけではさがせない	2, 先生にてつだってもらえばさがすことができる	3, 時間がかかるけど、自分でさがすことができる	4, 自自分でさがすことができる	5, すぐに自分でさがすことができる
中学校合計	3.6%	2.8%	26.7%	44.2%	22.8%

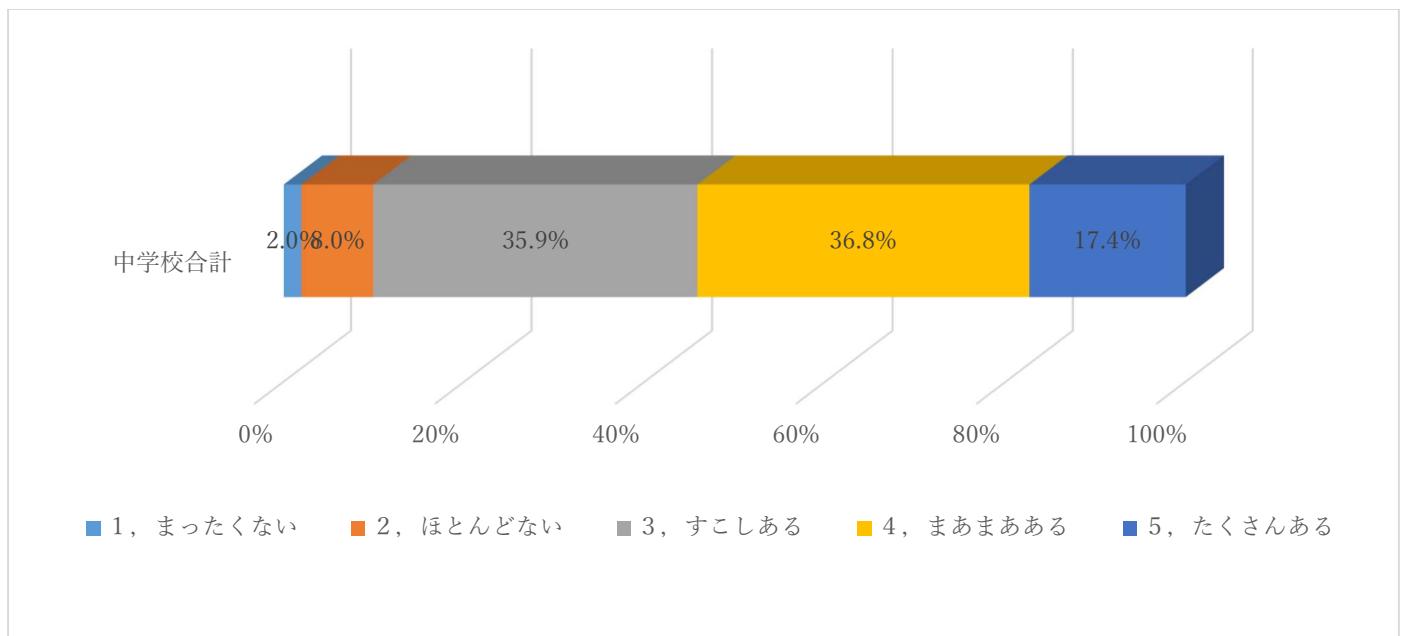


⇒「時間がかかるけど、自分でさがすことができる」「自分でさがすことができる」「すぐに自分でさがすことができる」の回答率は93.7%でした。

多くの生徒は自分で探すことができていますが、学習に伴う本は専門的になることから本の分類を理解していないと場所が特定できないことがあります。一緒に探すこともありますが、電算化によってよりスピード感を持てるといいと考えています

【報告4】質問：学校の図書室に好きな本がありますか？について

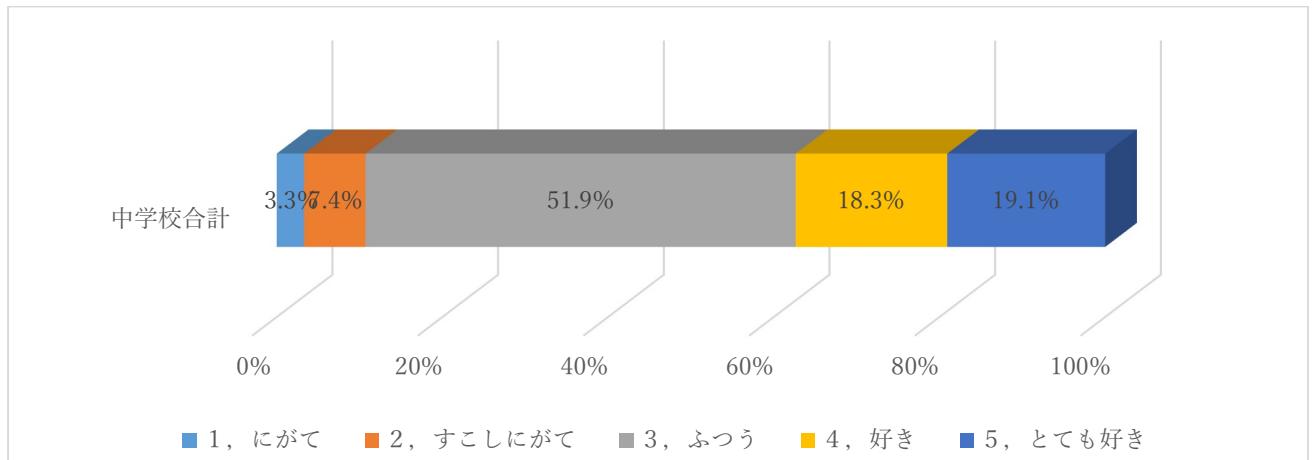
	1, まったくない	2, ほとんどない	3, すこしある	4, まあまあある	5, たくさんある
中学校合計	2.0%	8.0%	35.9%	36.8%	17.4%



⇒「まったくない」「ほとんどない」の回答率は10%でした。中学生では、自分の好みがはっきりしてきて、「好きな本」というものが自分の興味関心のある本となります。が、学校図書館という場でありますので、学習に絡めた本も多くなっているので、多様な構成バランスを持ちながら、生徒の興味を引くような本を購入し、今必要とされている時代に合った本を取り入れるよう心掛けています。

【報告5】質問：学校図書館に行くことが好きですか？について

	1, にがて	2, すこしにがて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
中学校合計	3.3%	7.4%	51.9%	18.3%	19.1%



⇒「好き」「とても好き」の回答率は 37.4% でした。

図書室は、学習できる場、楽しめる場、落ち着く場になるよう整備しています。図書室を居場所として求めている生徒もいますので、すべての生徒に利用してもらえるよう心掛けています。

【全体的な考察】

本調査結果より、現在甲州市の小中学生全体として、読書及び学校図書館に対する苦手意識は少ないことが伺えました。また、学校図書館の使いやすさや蔵書構成についての満足度は高めの傾向にありました。

次年度の取り組みとしては、第三次甲州市子どもの読書活動推進計画にのっとり、関係各所との協力連携をより深めていく中で、苦手意識のある児童生徒のアプローチについても、今後展開していきたいと考えます。また学校図書館のシステム導入に伴い、より使いやすく利便性のある学校図書館として、児童生徒への読書活動推進に関わっていくと共に、教科書改訂に伴う授業支援についてもより積極的に行っていきたいと考えます。